

3 糖尿病友の会のウォークラリーに参加して

山田 徹¹⁾・成田 操²⁾・山際 睦美³⁾
 山口 広美³⁾・吉田 禪³⁾・藤塚三枝子³⁾
 土田 浩司⁴⁾・石澤 正博⁵⁾・山田 貴穂⁵⁾
 宗田 聡⁵⁾

新潟市民病院薬剤部¹⁾
 同 看護部²⁾
 同 栄養管理科³⁾
 同 臨床検査科⁴⁾
 同 内分泌代謝内科⁵⁾

新潟市民病院友の会は昭和51年、病院の呼びかけによりスタートした。最盛期は会員が200名を超える時もあり、種々の行事が行われていたが、活動は病院スタッフ主導のものであった。いつしか活動は活性のないものとなり、新病院移転後、休止状態となった。平成20年より友の会は会員よる自主運営型へ活動方針を転換した。平成23年11月現在、少数ながら毎回の行事の参加率は50%を超えるようになった。今回の行事では通信病院患者会と合同で、①同じ糖尿病食を食べ、②歩く前後の血糖値を測定し、③病院近くの鳥屋野瀉公園でウォークラリーを行った。患者と交わした会話の中には糖尿病療養に関するものが多くあり、スタッフとともに運動しながら勉強もできる有意義な会となった。終了証を受け取った会員のうれしそうな表情に友の会の真のあるべき姿を感じ、患者とスタッフの相互協力による会の運営効果を実感した。

4 「患者から医療スタッフに伝えたいこと」のアンケート結果から

田村 紀子

万代内科クリニック

DM外来のある5病院、DM専門医のクリニック5施設を無作為に選び、外来DM患者に同じアンケートを行った。(アンケート内容は関東甲信越糖尿病セミナー世話人会意見を取り入れ作成した)医師に対し：現状肯定70%。10%は「薬物治療の説明」「運動療法の指導」を希望。栄養

士：サプリメント、ダイエット食品についての相談希望が多かった。20%が実際の食生活と指導内容にギャップを感じていた。薬剤師：現状肯定70%。施設間で差がありプライバシーを問題視する意見もあった。看護師：フットケア、シックデいの指導希望者が多い。さらなる関わりを希望するが10%あった。施設によって「看護指導」「看護外来」がまだ認知されていない可能性もあり、アピールが必要と思われた。

5 「当院における外来糖尿病療養指導」【SMBGの解析を用いた療養指導について】

石黒 健一・石黒 泉・渡辺 重雄*
 大島 貞子**

(独立行政法人)労働者健康福祉機構
 燕労災病院検査部
 同 薬剤部*
 同 看護部**

【はじめに】糖尿病療養指導チームにおける検査技師の活動として解析ソフトを用いた療養指導の取り組みについて報告する。

【対象】2011年9月～12月までの間にワンタッチウルトラビューに変更した20名。

【方法】

1. 変更時にSMBGのタイミングを確認しランダム測定するように指導。
2. SMBG解析ソフトを利用した療養指導。

【結果、考察】

1. 測定のタイミングはランダム測定が6名と少なかった。測定のタイミングが増えることにより解析データの信頼性が増すと思われる。
2. SMBG解析においては日内変動や生活のリズムがよみとれ、また自己管理ノートの記載漏れや虚偽報告の防止にも繋がり、患者および医師に正確な情報提供ができる。